

授業科目 老年実践看護論Ⅱ	科目概要・形式 1 単位 15 時間 (8 コマ) 講義科目	配当年次 博士前期 1 年次 後期開講	オンライン参加 可
科目責任者	出貝 裕子		
科目担当者	出貝 裕子, 長内 志津子, 大崎 瑞恵, 花田 麻由美, 大塚 眞理子 (非常勤)		
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>疾患や生活機能障害を抱えセルフコントロールしながら地域や施設で暮らす高齢者が, QOL を維持し自分らしい暮らしを継続するために求められる看護の継続を探求する. さらに, 必要なケア・医療が円滑に提供されるための多機関との連携に必要な知識・技術を深め, 機関間の橋渡し等調整する能力の基礎を養う.</p> <p>到達目標</p> <p>[1] 高齢者のセルフマネジメント力をアセスメントし, より高めるための支援方法について説明できる.</p> <p>[2] 加齢に加えて慢性疾患や後遺症とともに地域で暮らす高齢者が質の高い生活を維持するために必要な看護とそれを継続するためのケアマネジメントについて説明できる.</p> <p>[3] 在宅で暮らす高齢者と家族を支える多様な資源について説明できる.</p> <p>[4] 高齢者と家族を支援する多職種を理解し, 多職種連携を推進する方法が説明できる.</p> <p>[5] 地域で医療を継続する高齢者に対する実践事例を振り返り自らの看護の深化を考察し説明できる.</p>			
2. 授業計画・内容			
回	授業内容	担当者	
1	地域でセルフコントロールしながら暮らす高齢者へのフォーマル・インフォーマル支援の探索とそれら高齢者と有機的につなぐ方策の検討	長内	
2	高齢者のこれまでの疾患や生活機能障害への取り組みをふまえたセルフマネジメント力のアセスメント	大崎	
3	地域の特徴を基盤にしたより健康的な暮らしの継続に向けた診療所・外来における高齢者のセルフマネジメント力を高める看護実践	大塚	
4	高齢者のセルフマネジメントへの ICT やデジタル技術の活用事例	出貝	
5	慢性疾患と生きる高齢者の豊かな生活を支えるための訪問看護・施設看護の実際	花田	
6	地域でセルフコントロールしながら暮らす高齢者を支える多職種連携に必要なスキル	大塚	
7	より高いレベルのチーム力を発揮できるように老人看護 CNS に期待される調整役割	大塚	
8	在宅療養高齢者の高度で専門的な看護方法及びケアマネジメントに関する事例検討	花田	
<p>3. 教科書・参考書</p> <p>(教科書)</p> <p>大塚眞理子他: 地域共生社会をつくる多職種連携・協働のあり方とは, ワールドプランニング, 2023.</p> <p>(参考書)</p> <p>長江弘子: 生活と医療を統合する継続看護マネジメント 第2版, 医歯薬出版, 2018.</p> <p>武藤正樹: 医療・介護 DX ~コロナデジタル敗戦から AI まで~, 日本医学出版, 2023.</p> <p>清水奈穂美: 在宅ケアのための判断力トレーニングー訪問看護師の思考が見える, 医学書院, 2022.</p>			
4. 成績評価方法			
プレゼンテーション及び討議への参加状況 (40%), 課題レポート (60%) で総合的に評価する.			
5. 受講要件			
なし			
6. 社会人学生に対する配慮			
必要に応じて夜間・土曜日開講, オンライン参加 (ライブ) 可能			
7. その他			